

安心できる居場所づくりについて

不登校児童の状況

対象児童は、授業中に聞こえてくる私語や、教室内のざわざわとした音が苦手で、保健室で休養することや欠席が多い。別室登校支援員が来る日には、登校できることが増えてきた。

具体的な取組

○校内別室での個別支援

リラックスできるようにするため室内を整頓し、居心地の良い雰囲気を作るために静かで落ち着いた空間を確保するなど、校内別室の環境を整えた。また、当該児童の体調を見ながら、アイスブレイクを取り入れ、当該児童とじっくり話をし、心のケアを行いながら、学習支援を行った。

○スモールステップ

無理に教室に戻すのではなく、まずは学校に来ることを目標にし、登校できたら声をかけるなど安心感を与えられるようにした。また、教室に戻る段階になるまでは、保健室や校内別室で当該児童のペースで安心して学べる環境を整え、静かな空間で、必要に応じて先生と一対一で学習支援を行った。

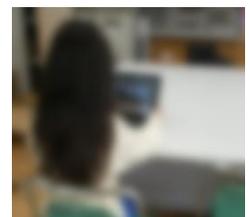
○情報共有の工夫

定期的に行う校内委員会や職員夕会で、支援の進捗や状況を報告・情報共有をすることで、学校全体でのサポート体制を強化できるようにした。また、校内別室での対応や外部機関との連携を図ることができるようになった。

○デジタル機器の活用

オンライン会議システムを活用し、国語、算数、理科など、ノートを使用した学習場面において、黒板の見え方や教師の発言が聞こえるように配慮しながら、オンライン授業で学習を進めた。

また、授業支援アプリでは、学校行事や学習内容、課題、連絡事項を確認できるように支援を行った。



成果

当該児童の体調を見ながら、安心できるような声かけをして支援したことで、学級との関わりを維持できている。また、教職員で情報共有をしたことで、校内別室での対応や外部機関との連携を図ることができるようになった。

課題

教室で過ごせる時間を少しずつ長くできるよう、無理強いせず安心できるような声かけで、給食や帰りの会などへの参加を促していく。